

はじめて学ぶ芸術の教科書

水墨画 伝統から未来へ

李庚・塩見貴彦 編著



はじめて学ぶ芸術の教科書

水墨画

伝統から未来へ

李庚・塩見貴彦 編著

表紙画像…《琴棋書画図屏風》宮内庁京都事務所蔵
表紙デザイン・編集・DTP…(株)エディット

はじめに

絵画の自由性と水墨画の韻律は常に東洋人が愛する世界であり、特に日本にはそれを受け入れる深い土壌があります。大学の教育課程では毎年、学生からの支持を受けながら、これまで多くの方々が生徒として水墨画を学んできました。

このような状況が途切れることなく続くことから、私たち東洋人の存在を示す美意識が、生活に根付いていることを実感します。

私たちが常に考えているのは、絵画とは美しい記憶を留めるための最も大切な手段であり、絵画における自然現象はすべて非対称性（アシンメトリー）として表現されていることです。自然を対象にして拡大、縮小、もしくは加工しイメージを加えながら、二次元の平面空間に収める方法は、これまで東洋の芸術家が常に用いてきた表現手段です。そして、水墨という表現を用いながら非対称性に対する美を探究し理解を深めることは、芸術家にとって貴重な財産です。私たちは、この世界に対して情熱と努力を重ねながら研究を続けてきました。これは東洋の歴史において確かな成果として受け入れるとともに、誠に喜ばしいことにほかなりません。

過去から現在、そして未来へ、これからも水墨画がさらに皆さんの身近なものとなり、書画表現を通じて多くの名作が生まれてくることを心から期待しています。

目次

はじめに 3

◇第一部 構図と空間

9

第一章 東洋の木版画

第一節 芥子園画伝 10

第二節 浮世絵 17

第二章 水墨画の空間

第一節 実虚、賓主、疎密、呼应、開合 29

第二節 空間の連続性 36

第三節 現代作家と空間構成 37

第四節 落款と押印 38

第三章 構図と創作の要点 40

◇ **第二部 素材と表現**

第一章 紙・墨の特性と筆墨表現

第一節 紙と墨 44

第二節 現代作家の制作法 47

第二節 水墨画の特殊技法 48

◇ **第三部 画稿と創作**

第一章 歴代画家の画稿 50

第二章 画稿から創作へ 52

◇ **第四部 古典表現**

第一章 画題と形式 56

第二章 意匠と筆墨表現 58

第三章 省略、余白 59

◇ **第五部 抽象表現** 61

第一章 墨韻と表現 62

第二章 色彩と表現 63

◇ **第六部 水墨表現と現代性** 65

第一章 形式の多様性

第一節 装丁、ポスター 66

第二節 挿絵、絵本 68

第三節 水墨画とテキスタイル 71

第四節 陶磁器、絵付け 72

第二章 展示空間 74

◆ **第七部 制作**

第一章 ポートフォリオの作り方 78

第二章 制作計画書 81

おわりに 82

【執筆者紹介】 83

第一部 構図と空間



■「翎毛花卉譜」『芥子園画伝』

時代の変化に伴い、水墨画の楽しみ方が多様化する中、自分の感性に任せて筆墨を自由に解放することができるのは大きな魅力です。

筆墨を解放するためには、まず筆墨の特性と、水墨画の基本的な構図を学び、限られた画面を最大限に活用することが大切です。

さらに昔から「無法而法，乃為至法」（決められた法則を超えたところに本当の法則がある）という言葉があるように、創作では歴代作品の構図を借りるだけではなく、各自が自由に構図を組み合わせる工夫が必要です。

第一部では、水墨画の制作には欠かせない東洋を代表する構図を紹介します。

以下、実例を参照しながら、空間構成の多様性を知り、「韻律」など、描かない部分の意識も併せて学んでいきましょう。

第一章 東洋の木版画

第一節

芥子園画伝

竹

竹は直線的な線を用いて表現することから、水墨画を学ぶ基本とされてきました。長短、抑揚、軽重など、筆墨の関係は笹、竿、枝を自在に組み合わせながら表現します。

竹の筆勢と造形の関係



竹の勢いと画面の広がり

画面の中に一枚の作品として竹を構成する場合、画面の外まで描き出すことで空間が広がり、画面内の余白も引き立ちます。



笹の特性と空間の調和

笹の部分を拡大してポイントを絞り、笹の造形、勢い、重なりを図解でわかりやすく解説しています。

梅

冬の厳しい寒さに耐えて香り豊かな花を咲かせる梅は、多くの人を魅了します。筆墨による幹、枝の質感と、花の曲線を組み合わせることで剛と柔が融合し、独特な余韻を生み出します。また「梅の特性と部分表現」のように、描き出す段階で枝を交差させ、重なる関係を意識することで奥行きが生まれます。

梅の造形と代表的な構成法



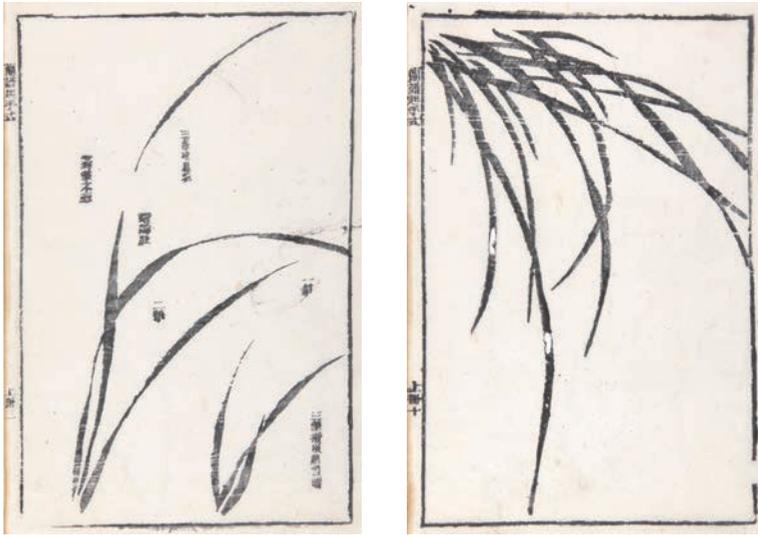
梅の特性と部分表現



蘭

しなやかな曲線が織りなす蘭は、清らかな精神性と情趣を表現することが出来ます。筆法の基本となる一本の線から複雑な組み合わせ方まで、起承転結を意識することで、不要な線を省略し、画面を整理する方法を学ぶことが出来ます。

■ 葉の勢いと上下の運筆法



■ 蘭の特性と部分表現



■ 蘭の構成と空間



菊

長寿と高節の象徴である菊は、晩秋に香り高い花を咲かせます。花、葉の造形では、繊細さの中に、静と動、変化と統一を意識することが大切です。菊花を主役として引き立たせるために、葉を脇役としてどのように配置しているか分析してみましょう。

菊花の種類と造形の特徴

①花のリズム感(均一と不均一の調和)



②花と葉の造形(描き出す方向と立体感)



花と葉の組み合わせ方

①線と面の関係

菊花の造形と線のリズムを引き立てるために、葉は濃淡で「面」を意識します。



菊の構成と空間



②菊と竹の構成

菊は丸みのある造形が特徴です。そこに竹の直線的な表現を加えることで画面に「柔」と「剛」のリズムが加わります。



山水

山水画は花鳥画や人物画に比べ表現する要素が多く複雑です。まずは山石、樹林を配置した後、人物、建物、舟などを加えて天人合一^{てんじんごういつ}の世界へと導きます。

山水画の基本的な構図を分析してみると、手前から奥へとつながる空間に近景、中景、遠景を意識していることがわかります。このように、段階的に空間を構成することが山水画を描くポイントとなります。



■ 基本的な山水画の構成

近景を中心に置くことで遠景は隠れて、想像する空間が生まれます。



■ 点景 (人物)

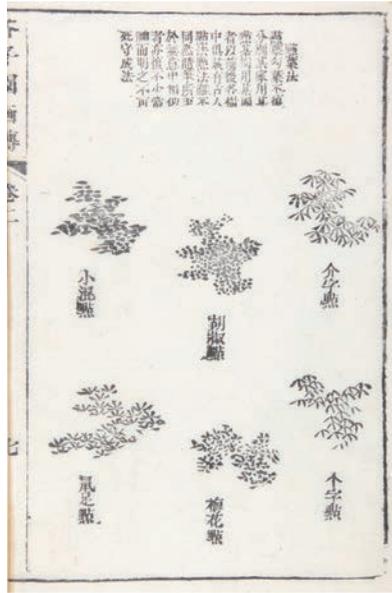


■ 点景 (建物・舟)



■ 山水画を代表する樹林法

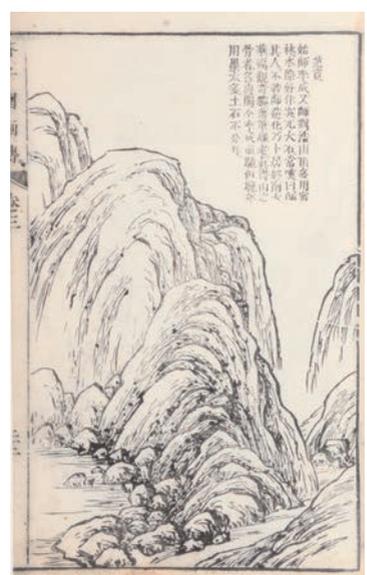
樹と林は季節や環境によって成長が大きく変化します。芥子園画伝では、外で写生ができない状況でも樹林の造形や組み合わせ方を学べるように、基本的な造形から解説を加えています。



■ 山水画を代表する山石法

山と石の表現は、山水画の空間を構成する基本となります。芥子園画伝では「石」の単体から山脈のリズムまで、表現者の必

要性に応じて自由に組み合わせることができるよう、多様な図式を用意しています。



第二節 浮世絵

日本の江戸時代を代表する芸術に浮世絵があります。木版画という限られた表現の中で明確にメッセージを伝える作品には、鑑賞者を画面に誘導する構図のポイントが隠れています。



■ 歌川広重《名所江戸百景 亀戸梅屋舗》

浮世絵は日本を代表する芸術表現であり、その作品は世界の巨匠が収蔵し、多くの学者による研究が進んでいます。浮世絵と芥子園画伝の関係は深く、また世界美術史の中でも東洋芸術の燈となっています。

浮世絵は現代美術の潮流の中、日本社会に及ぼした影響は大きく、既存の古典形態を解体し、新たな美への意識と市民の思想を融合しました。そして、この現象は日本に限ったことではなく、ヨーロッパの古典文化と伝統的絵画芸術にも大きな影響を与えました。後に、この潮流は社会、文化、芸術および芸術家の思想を解放する起点となりました。

水墨画の巨匠、李可染は若い頃から版画に興味を持ち、魯迅先生のススメに従い、版画作品の収蔵を始めます。

その中には、ドイツ表現主義ケーテコルヴィッツの作品、併せて印象派、古典主義、中国版画、浮世絵などがあります。現在、多くの芸術家が伝統芸術から離れて現代芸術に傾倒する中、芸術の潮流が再び古典に回帰することは難しい状況にあります。

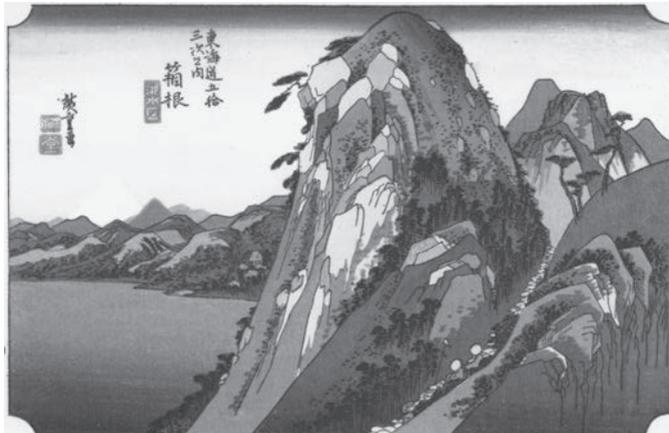
これから新たな水墨画の世界を創造するためには、もう一度、東洋を代表する思想と芸術表現を深く見詰め、一つの絵画表現がどのようにして世界を変えたのかを分析する意識を持つことが必要となることでしょう。

■ 複数の色を用いた画面からモノトーンの階調へ

● 多色と空間表現



● 単色と空間表現



■ 着物の複雑な変化と画面の統一感

とよはらくにちか
豊原国周 《中間市助 市川九蔵》《おせん妹おのぶ 沢村田之助》



■ 変化と統一

浮世絵の多色刷りは見る者を魅了します。仮に上記の作品を濃淡に置き換えたとき、どのような特徴が現れるでしょうか。手前から画面奥につながる「逆C」の構図ではしっかり大小、疎密、余白が意識されていることにより、色彩に頼ら

なくても構図法として洗練されていることがわかります。

以上のことを理解した上で、次に分がイメージする奥行きを具体的に考えながら、少しずつ構図と空間の理解を深めていきます。

浮世絵の巨匠・歌川広重

うたがわひろしげ

作品紹介①

東海道五拾三次

○代表作

広重の浮世絵を代表するのが『東海道五拾三次』です。画題は、東京日本橋から京師（京都）三条大橋までの宿駅です。構図のポイントは「道」であり、画面の手前から奥に向かう構成では、当時の景観と風俗を見事に描き出しています。

○夜景と雪景

浮世絵は、摺るとい^すう工程を通じて多彩な面を表現することができます。広重はその特性を活用して多くの夜景、雪景を残しています。このような全体を落ち着かせ画面を調和させる方は、水墨画の墨調表現にも応用できます。

■『東海道五拾三次』(1)



■『真乳山山谷掘夜景』



浮世絵の巨匠・歌川広重
作品紹介②

構図の多様性と共に落款、印章の位置によって空間が変化することを学びましょう。また、具体的な描写だけでなく、画面の中で空気がどのように流れているのかなど、全体の雰囲気进行分析してみましよう。

■《東海道五拾三次》(2)



近江八景

■ 《近江八景》(1)



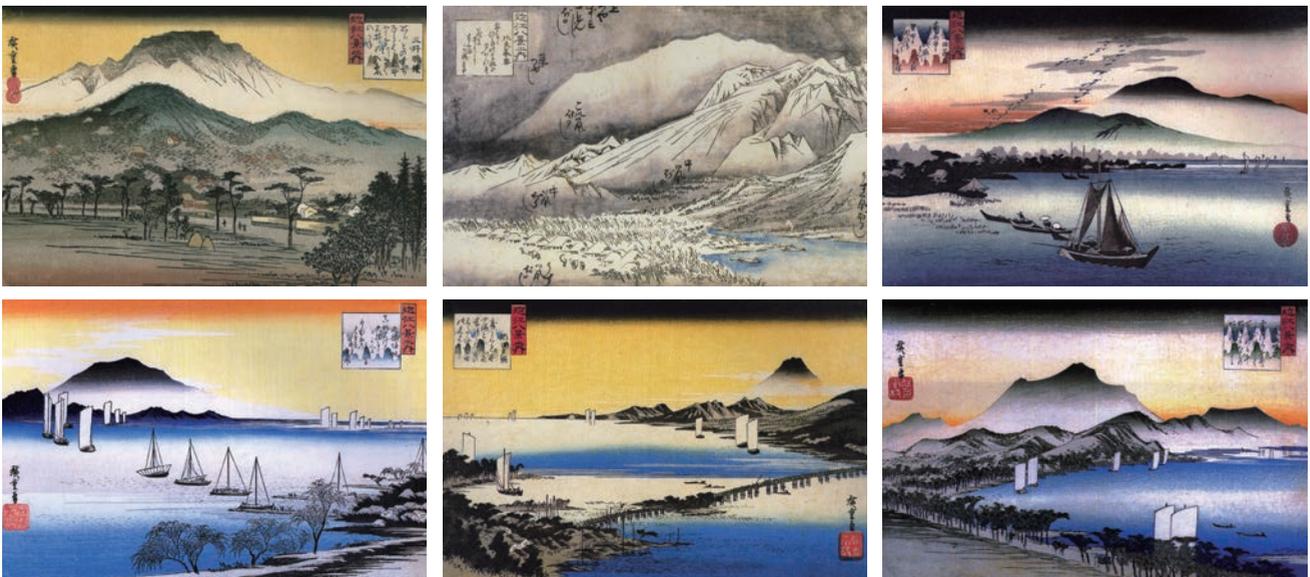
■ 《近江八景》(2)



もう一つ、広重の代表作に《近江八景》があります。日本近江国の優れた風景を八つ選んだもので、中国北宋時代の《瀟湘八景図》に起源があります。このシリーズで広重は「水」を中心に画面を

構成しており、東洋を代表する空間表現として水墨画にも応用できると思います。また「水」と陸地が接している部分の洗練された表現にも注目してみましょう。

■ 《近江八景》(3)



浮世絵の巨匠・
月岡芳年／歌川豊国
作品紹介

○ 月岡芳年
つきおかよしとし

江戸時代末期の人気浮世絵師、
歌川国芳うたがわこくよしに入門した、明治時代を

代表する浮世絵師です。

激動の時代を生きる中で、「無惨絵」、「怪奇絵」、「武者絵」などに挑戦し、浮世絵界の鬼才と呼ばれました。

上の一枚は「美人画」に分類することができると思います。構図の特徴は、多くの人物を画面に登場させるとき、顔の化粧や衣装に統一感を持たせながらも、傘、扇子、冠などの小物で変化を加えています。さらに、横に長い構図と画面の連続性を意識し、画面右奥の乗り物を外から内に招き入れているところに巻物形式の特徴が感じられます。



■ 月岡芳年《明治少史年間紀事 皇后宮西京行啓鉄道館発車之図》
浅井コレクション蔵 Photo: Cool Art Tokyo/ DNPartcom



■ 歌川豊国の作品

○ 歌川豊国
うたがわとよくに

豊国は画面を構成するとき、人物を孤立させるのではなく、群像として関係を持たせて、人物の役割を明確に表現しています。

また、建物を隔てた内と外の背景では、辺と角を巧みに処理し、限られた空間に広がりを持たせています。



■ 歌川豊国の作品

人物の曲線的な造形を引き立てるための工夫として、画面左の「垣根」と右の「建物」の関係、そして直線を用いた表現が見られます。

浮世絵の巨匠・葛飾北斎

かつしかほくさい

作品紹介

富嶽三十六景

● 人物と富士山の距離感



● 広い余白と富士山の存在感

北斎の富嶽三十六景は、浮世絵の代表作です。当時から富士山に対する庶民の信仰は深く、現在も日本人の心に受け継がれています。北斎は富士山を画面の中心に配置する代表作もありますが、多くの作品は手前

の情景に対して、遠くに富士山を望む構成でまとめられています。山水画でも、主役を近景、中景、遠景のどこに配置するかによって、作品の情趣が変わってきます。北斎のように、主役となる富士山を小さく点景で表現する発想は、水墨画の新たな空間を構成する起点になると思います。



● 岩山の連続する流れと点景人物の対比

浮世絵の巨匠・喜多川歌麿きたがわうたまる 作品紹介

歌麿は人物画を得意とし、人物像の描写と背景の調和に特徴があります。水墨画において、背景は余白として残すことが多いですが、効果的に背景空間を活用すれば、画面の中心となる対象をさらに引き立てることができます。

■ 喜多川歌麿《鮎取りあひり》



● 3人の関係



● 2人と1人の関係



● 各1人の関係

■ 人物と構成《両国橋隔田川納涼》

浮世絵の巨匠・東洲斎写楽

とうしゅうさいしやらく

作品紹介

写楽の人物画

写楽は役者を描くことを得意とし、独特の感性で人物の姿を誇張し、その大胆で自由な表現は、後世の芸術家に大きな影響を与えました。例えば、人物の表情や動きを中心に構成する場合、背景は単色でまとめ、人物の着物の柄、色調が引き立つように表現しています。また、人物全体を画面に入れるか、もしくは上半身のみを描くのかによって視点が変わり、肖像画としての要素も加わります。

人物と傘の関係



三代目市川高麗蔵の亀屋忠兵衛と初代中山富二郎の傾城梅川

表情と手の関係①



二代目小佐川常世の二平姉おさん



三代目坂田半五郎の藤川水右衛門
出典：ColBase(<https://colbase.nich.go.jp>)

表情と手の関係②



二代目嵐龍蔵の金貨石部金吉



三世大谷鬼次の奴江戸兵衛



二代目瀬川富三郎の大岸蔵人妻やどり木と中村万世の腰元若草
出典：ColBase(<https://colbase.nich.go.jp>)

浮世絵を愛するクロード・モネ

クロード・モネは印象派を代表する人物で、《睡蓮》《印象・日の出》は現在も多くの人を魅了します。彼は洋画の巨匠でありながら東洋への造詣も深く、特に浮世絵の、多色刷りによる色彩と画面の調和に対して興味を持っていました。それを象徴するのはモネ

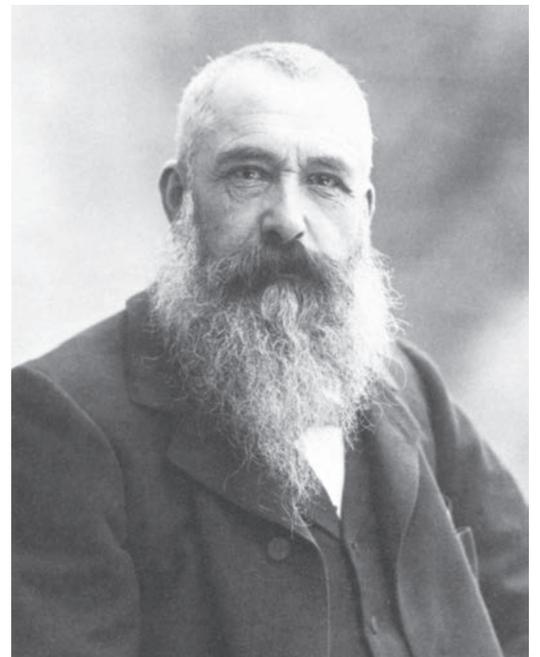
の家にある浮世絵の数々です。西洋家具のしつらえと東洋の芸術は不調和な感じがあるかもしれませんが、壁に浮世絵を掛けて常に鑑賞できるような空間を好んだことから、モネの東洋に対する深い見識を感じ取ることができます。



■ クロード・モネの家



■ クロード・モネ 《睡蓮》



■ クロード・モネ

芥子園画伝、

浮世絵、

中国伝統版画

東洋の芸術は表現技法が異なるものの、構図、空間などお互いに影響を受けながら発展してきました。色彩に関しては多くの色を使用しながらも、対比させるのではなく常に調和を意識していることに注目しましょう。

浮世絵

葛飾北斎



歌川豊国



浮世絵に影響を与えた中国版画 * 桃花塢



* 中国の伝統的な木版年画。徳川時代初期に長崎の貿易船で日本に到来する。

芥子園画伝



水墨画、工筆画

浮世絵に深い影響を受けた画家

陳洪綬



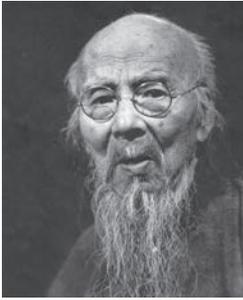
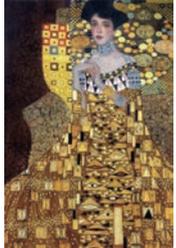
早期浮世絵の影響を受けた
文徵明



世界の巨匠と 浮世絵

巨匠の作品は技法が卓越しているだけではなく、作品から感じる個性が際立っていることがわかります。日々、思索と実践を

繰り返す中で、東洋の浮世絵の存在は直接的ではないとしても、少なからず多くの作家に影響を与えていたことがわかります。

| | | | | |
|---|---|---|---|------------------------------|
| <p>■ ゴッホ</p>  | <p>■ ロートレック</p>  | <p>■ 齊白石</p>  | <p>■ 李可染</p>  | <p>画家</p> |
|  |  |  |  | <p>画家の作品</p> |
|  |  |  |  | <p>画家に影響を与えたと 思われる作品</p> |
| <p>■ マネ</p>  | <p>■ モネ</p>  | <p>■ ドガ</p>  | <p>■ クリムト</p>  | <p>画家</p> |
|  |  |  |  | <p>画家の作品</p> |
|  |  |  |  | <p>画家に影響を与えたと 思われる作品</p> |